

■ 目標 ■

関西を起業家にとって必要な刺激や着想が得られ、事業を拡大していくうえで**面倒見の良い、頼れる地域**とすることを目標とする。**企業、自治体、ベンチャー支援に当たる組織、大学など、それぞれの行動や取り組みが大きな変化につながることを認識して、具体的な行動に移すことを期待する。**これらの主体の中でも、**企業は、調達、投資、人材や事業ノウハウなどの面でベンチャー企業を活性化させることが可能であり、ベンチャーエコシステム形成の上で、役割が大きいことを認識するべきである。**

■ 現状認識と問題意識 ■

【関西の現状】

- ・ 起業家を生み出すポテンシャルがある。
- ・ 自治体や関係組織の活動が活発化しつつある。
- ・ 既存企業のベンチャーへの関心が高まりつつある。
- ・ **ベンチャー企業や立ち上げ期のベンチャーがまとまりをもって存在する状況にはない。**

【関西の強み】

- ・ 企業の**垣根の低さ**
- ・ 組織の枠を超えた**緊密なコミュニケーション**
- ・ 大学・研究機関の**産学交流**の伝統
- ・ 政策課題に対する**民間主導**の取り組み

【関西の課題】

- ① 社会全体に浸透し、生活や産業活動の在り方にまで大きな影響を及ぼしうるような目標を定め、大きく成長する潜在力を持つベンチャー企業を見いだせていない。
- ② 大学、自治体、ベンチャーを支援する官民の組織の支援活動が、ネットワーク化されておらず、地域限定的。既存企業とベンチャー企業や立ち上げ期のベンチャーとの協業関係も目立ったものとなっていない。
- ③ アクセラレーター（ベンチャーの支援者）、エンジェル投資家の不足。情報や投資のノウハウが十分に共有されているとは言えない。
- ④ 起業家のロールモデル（ベンチャーの成功者）が目立つ存在となっていない。

■ 提言 ～アクションプラン～ ■

① デザイン思考に基づく社会的オープンイノベーション

人に焦点を当て社会の課題を発見、ニーズを形成しベンチャーの起業を志す者にぶつける「社会的オープンイノベーション」の場を創設する。
「人の生活と社会をいかにより良くするか」という視線で、何を作ればよいかを主眼に考える「デザイン思考」のもとイノベーションを起こし、成長を加速化する。
企業は課題を抱え込まず、ベンチャー企業との対話、交流に取り組むべき。

② 人的ネットワークの形成でベンチャー支援

経済団体やベンチャー支援に当たる組織は、ロールモデルになる起業経験者、ベンチャーの支援・投資経験者などを見える化、ネットワーク化すべきである。

③ 国際的ネットワークの形成で海外展開支援

ベンチャーおよびその支援組織は、常に海外マーケットを見据え、外に打って出るという意識を持つことが必要である。
海外のベンチャー関係組織が実施するプログラム・イベントなどの活動に積極的に参加するのみならず、共同でピッチイベントを開催するなど、ベンチャー企業に海外との交流の機会を提供すべきである。
また、海外で活動する関西にゆかりのある起業家の発掘とネットワーク化を推進すべき。

④ 地域連携組織で資金支援

関西での投資活動がしやすくなるよう、ベンチャーキャピタルに対し、関西のベンチャー企業の情報を提供し、案件のマッチングを強化することが必要。
個人篤志家や企業のエンジェル資金の流れを太くするため、税制優遇や規制緩和が必要。
一回限りのファンド形成だけでなく、継続的に資金を集め、その資金を投資や人材育成に活用する仕組みの整備を検討すべき。

⑤ リンスタートアップと支援環境の整備

リンスタートアップとは、市場投入前に時間をかけて検討するのではなく、製品やサービスに多少不完全な部分があっても試作品を早く市場投入し、市場からの反応を取り入れて、素早く開発を進める手法である。
こうしたプロセス実施のノウハウ提供、試作に協力する企業などのネットワーク化、ウエットラボや3Dプリンターを利用する体制の整備が必要。ものづくり企業の協力を期待。

⑥ 大学連携と「デザイン思考」による人材育成

ニーズを自ら見つけ、事業として組み立てる能力を持つ人材の育成のため、大学が共同で起業促進のための講座を開設し、これまでの大学や学部・専攻の枠を超えた人材育成を行うことが効果的である。
イノベーションの手法である「デザイン思考」を教える学科を人材交流がしやすい至便な場所に、大学院として共同で設置することを提案する。